

医薬品情報WEBプラットフォームFINDATを活用したエビデンスに基づくトレーシングレポート等情報提供の事例報告

日本調剤株式会社 FINDAT事業部 杉崎勝義、上田 彩、水口麻実、井原香名子、増原慶壮

【1. 目的】

2015年厚生労働省の「患者のための薬局ビジョン」*1により、薬剤師による対人業務の重要性が明確に示された。また地域包括ケアシステムの担い手として多職種連携における薬の専門家としての薬剤師の質の高い情報提供が求められている。質の高い情報提供にはそのエビデンスを付加することが重要とされる。そこで今回、医薬品情報WEBプラットフォームFINDATを活用しエビデンスに基づく情報提供を試みたのでその事例を報告する。

*1平成27年10月23日 厚生労働省

【2. FINDATとは】

- 「FINDAT」は医療従事者のための医薬品情報プラットフォームである
- 原著論文や医薬品データベース、国内外のガイドラインなど様々なデータソースから網羅的に収集した医薬品情報を評価したものを掲載している
- 主要コンテンツ
 - ・標準フォーミュラリー
 - ・海外規制機関情報
 - ・薬効群比較レビュー
 - ・適応症追加
 - ・新薬評価

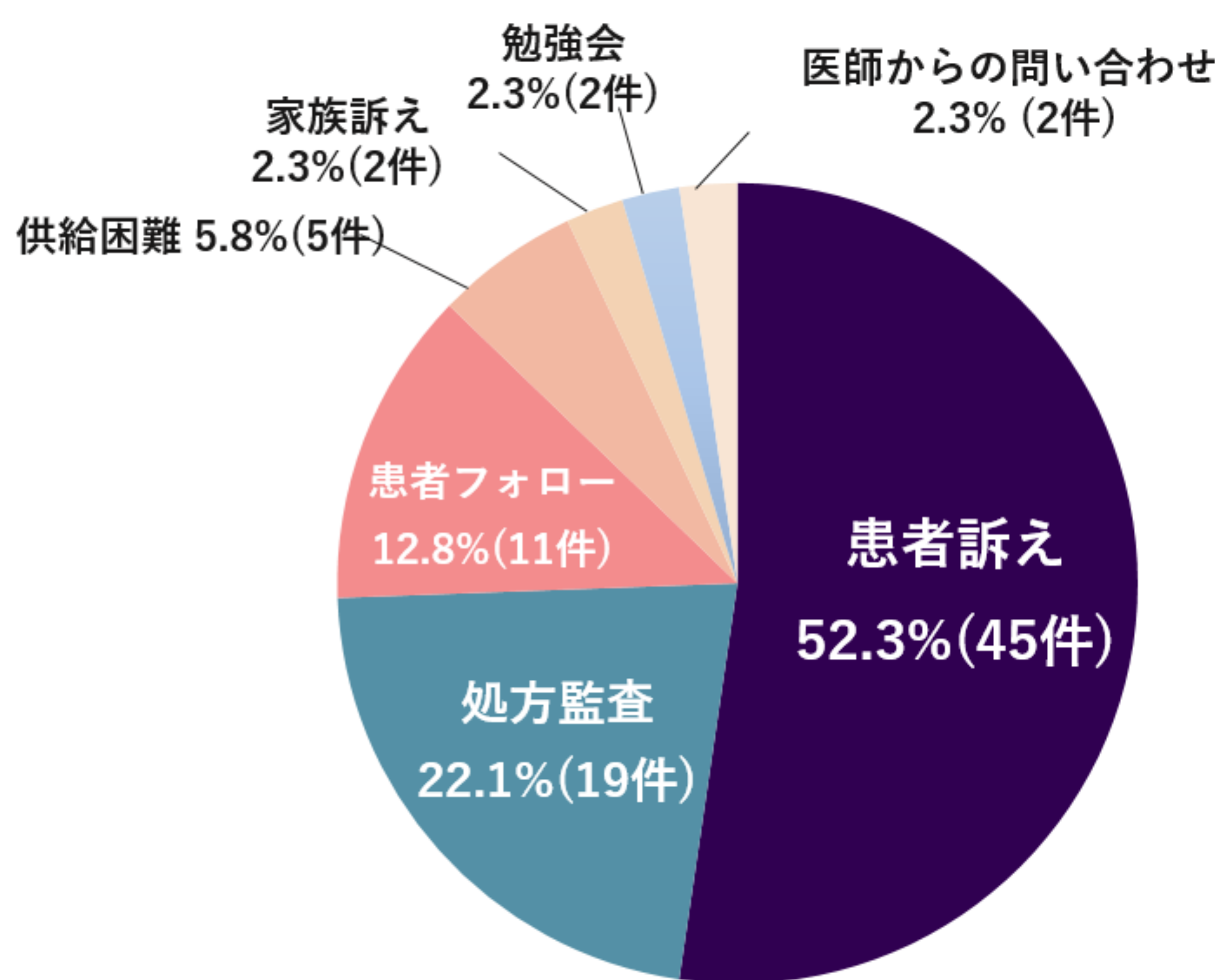
【3. 方法】

- 期間：2022年7月15日～2023年3月16日
- 対象：日本調剤111店舗
- 報告方法：報告用フォームにFINDATを活用した介入事例について店舗薬剤師が入力した

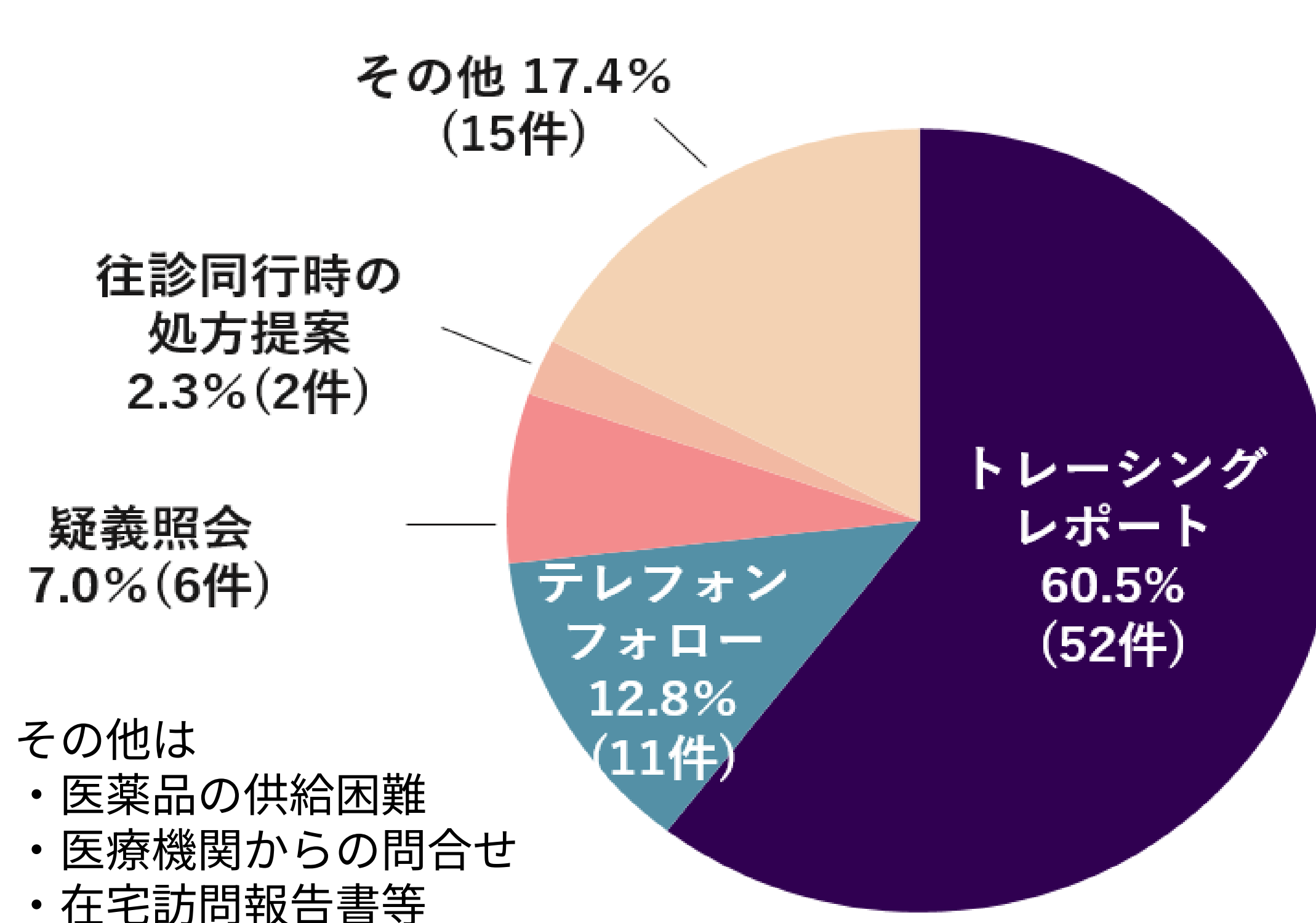
【4. 結果】

事例収集期間に、店舗より活用事例の報告が86件あり、介入の契機・活用方法や目的の内訳は下記であった。

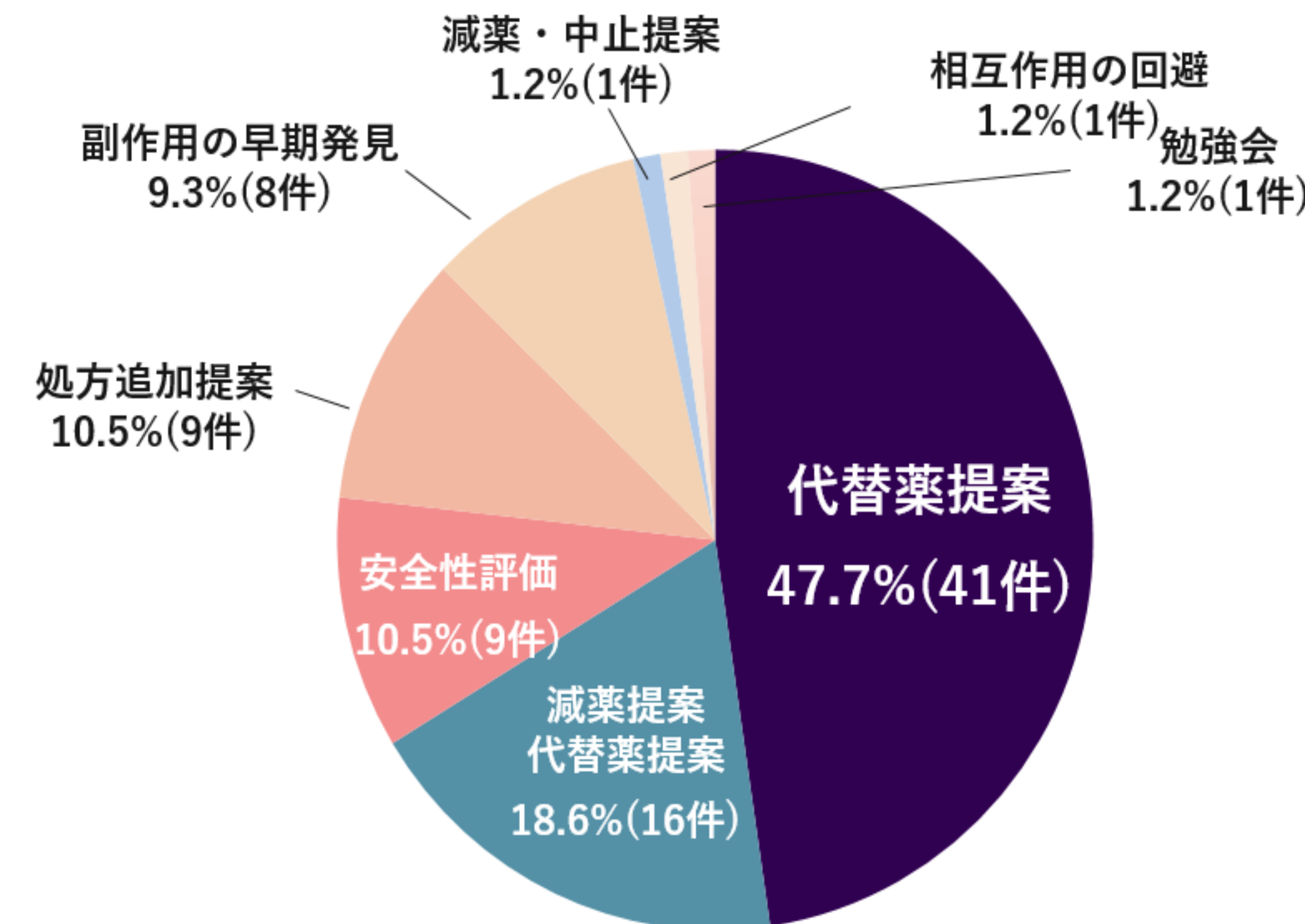
①介入の契機



②活用方法



③活用の目的



【抗ヒスタミン薬に関する情報を活用した事例】

■小児科 10代女性

■処方薬

オロパタジン錠5mg 2錠 分2 朝食後、就寝前 28日分
メラトニン顆粒小児用0.2% 0.5g 分1 就寝前 28日分
アリピプラゾール錠1mg 2錠 分1 朝食後 28日分

■経緯

花粉症にて初めてオロパタジン錠が処方。
テレフォンプォローで授業中に眠気があると訴え。
処方医へのトレーシングレポートを作成する際にFINDATを活用

■FINDAT確認項目

- 鼻アレルギーガイドライン2020年版での推奨について
- ・第2世代抗ヒスタミン薬推奨確認
- 有効性と安全性について
- ・添付文書の運転等の操作に関する記載一覧
- ・鎮静性の比較一覧より各薬剤の鎮静性を確認

■代替薬提案

オロパタジン錠→フェキソフェナジン錠またはロラタジン錠の代替薬を提案。次回来局時にロラタジン錠10mgに変更となる。

【NSAIDsに関する情報を活用した事例】

■呼吸器外科 70代男性

■処方薬

セレコキシブ錠100mg 2錠 分2 朝夕食後 77日分
エチゾラム錠0.5mg 3錠 分3 朝昼夕食後 30日分
メトクロプラミド錠5mg 2錠 分2 朝夕食前 77日分
センノシド錠12mg 2錠 分1 就寝前 40日分

■その他併用薬

- ・サクビトリルバルサルタン錠100mg
- ・ロスバスタチン錠5mg
- ・アスピリン錠100mg
- ・フロセミド錠20mg
- ・ボノプラザン錠10mg
- ・トルバプタン錠7.5mg
- ・カルベジロール錠2.5mg

■経緯

肺がん(手術不能)、心不全治療中(他院)の患者より「心臓が弱くなった、痛み止め減らしてみようか」と不安を訴えられる。
セレコキシブ錠は、心機能障害には慎重投与の記載確認。
病院に提出するトレーシングレポートを作成する際にFINDATを活用

■FINDAT確認項目

英国医薬品・医療製品規制庁情報等

■代替薬提案

心血管系への安全性を考慮しセレコキシブ錠→ナプロキセンまたはイブプロフェン錠の代替薬提案。処方変更には至らなかった。

【5. 考察】

事例収集を通じて、活用契機は患者の訴え、活用方法としてはトレーシングレポートの作成、活用の目的としては代替薬提案が最も多く認められた。FINDATは適応症などの基本的な医薬品情報に加え、各種ガイドラインにおける位置づけ、利便性、経済性などが薬効群の中で横並びに比較できるようにまとめられている。代替薬の提案は単に適応症が一致しているかにとどまらず、その薬剤が治療ガイドラインに沿ったものか、患者の身体的状況、生活習慣、経済性等を考慮したうえで、その有効性・安全性・利便性に問題は無いかが、様々な情報を収集し判断しなければならない。情報収集とその評価は個々の能力に頼るのではなく、薬剤師誰もが根拠に基づいて提供することが必要である。しかしながら日常的に忙しい状況にある薬局現場では情報収集に充てられる時間は限られている。そこで日頃から情報を整理し、すぐに必要な情報にアクセスできる体制の構築が、今後の薬局の質的向上に重要であると考えられる。

日本薬局学会
COI 開示

筆頭発表者名：杉崎 勝義

演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある企業等はありません。